平成２２年５月２９日発行　第８号

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY

Wikimedia Commons : ヘビクイワシ

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌　VOL.8

《小さなハートプロジェクト》ベナン共和国への支援

本県出身の協力隊員・大竹さんからベナン共和国に対する《小さなハートプロジェクト》の申請があり、当会からも支援しました。その活動ぶりを紹介します。

◆《小さなハートプロジェクト》とは・・・

地域の人々と共に暮らし、彼らと同じ視線で地域を見つめている青年海外協力隊員たち。本来の活動以外にも「学校のトイレが壊れているので修繕したい」「住んでいる村に水がないので山から水を引きたい」等の問題点が見えてきます。そんな彼らの思いを民間の支援につなげて資金的な援助を行なうのが《小さなハートプロジェクト》です。隊員と現地の人々が互いに相談・協力して問題解決のためのプロジェクトを企画・申請。JICA 事務所と協力隊を育てる会を経由して、日本国内の応援者につなげます。

◆今回のプロジェクトの内容・・・

今年、当会ではベナン共和国に派遣されている本県出身の青年海外協力隊員・大竹舞さんからの申請に応えて、20 万円を支援しました。更に、山形青年海外協力協会からの支援と個人からの募金を加えて、合計約 30 万円が送金されました。

ベナン共和国はアフリカ西部にあり、面積は日本の約３分の１、人口は約 700 万人。15 歳以下の子供達が人口の約半分を占めており、平均寿命は約 58 歳です。

「5 年後・10 年後も残る改善」を目指して、大竹さんと地元 NGO は女性グループのためのお店と会議室の建設を計画しました。

▽建築予定地　／　▽取り壊し中！

(1) 女性グループの存在や商品を外部に広報する (2) 女性グループの活動のモチベーションを上げる (3) 会議室設置による女性グループ同士での情報交換促進を目的とし、最終的には、女性グループの活動がうまく機能して、女性の所得が向上することが目標。　→

（1頁より→）「建物前の木の根っこが進出し、壁にヒビや穴が開いている状況なので、今の建物を取り壊し、３メートル後ろに建設」する予定だそうです。
大竹さんと現地の方々の夢を乗せた建物が、無事に完成することを願っています！

◎大竹さんがベナンでの奮闘ぶりを綴ったブログ。
ぜひご覧ください！

★大竹さんのブログ
→ http://ameblo.jp/mymogmog/

★国内機関長賞
「人々との国境なき巡り合い」仲山可那子さん（尾花沢市立福原中）
「本当の幸せのために」　水戸部紗矢さん（山形県立楯岡高）
★佳　　作
「世界の幸福の架け橋になりたい」中村航大さん（山形市立第六中）
「今、私にできること」遠藤幸奈さん（山形市立山寺中）
★青年海外協力協会賞
「百円で繋がる輪」　飯野奏子さん（山本学園山本学園高）
「身近な行動」　高橋 彩さん（米沢商業高等学校）
★学　校　賞
長井市立長井北中、山形県立酒田商業高
山形県立谷地高、山形県立米沢商業高

エッセイコンテスト表彰

大竹さんと現地ＮＰＯリーダーからの御礼状

協力隊員・大竹さんより

この度は、「小さなハートプロジェクト」におきまして、ベナン共和国アブランクー市における「女性グループのためのお店と会議室の建設プロジェクト」に支援をいただき誠にありがとうございます。３月２日（火）無事入金を確認いたしました。

早速、協力者である現地NGOと女性グループに話をし、３月中に建設を開始する予定でいます。帰国までの任期は決して長くはありませんが、支援していただきました貴重な資金を無駄にしないよう、現地の人と一緒に精一杯活動に取り組み帰国までに建設を完成させる予定でいます。

今回のプロジェクトは、アブランクー市における女性グループの活動の活性化、女性の所得向上のきっかけを目指して企画されました。プロジェクトが実現できることを、現地NGOと女性グループのメンバー共に心から喜んでおります。心よりお礼を申し上げます。

平成２２年３月１９日
２０年度１次隊　青年海外協力隊
村落開発普及員　任地アブランクー
大竹　舞

現地NGOのリーダー・クドボさんより

今回「小さなハートプロジェクト」におきまして、ベナンにおける社会の継続的な発展のために私たちのプロジェクトに支援していただき誠にありがとうございます。FoundationKOZAP（コザップ財団）の役員、スタッフ一同、お礼を申し上げます。

今回のプロジェクトがきっかけとなり、現在子供達や女性達に起きている問題が解決されることを願ってやみません。（中略）

・・・、私たちコザップ財団はCEGFという名前の女性グループ連合組織（アブランクー市にある約４０の女性グループ対象）を結成し、女性グループのために活動をすることを決心しました。女性グループ自身も今回の支援金が集まったことに対し心より感謝をしております。

今回のプロジェクトでお店が建設されることによって、彼女たちが生産する生産物が販売しやすくなり、その売上げが女性メンバーに還元されることによって、彼女たちが健康面や子供の教育にお金を使える余裕がより持てるようになるでしょう。
最後に、今回支援をしてくださった全ての方々に改めて心よりお礼を申し上げます。

平成２２年３月８日アブランクー
Foundation KOZAP（コザップ財団）
NGO（非営利組織団体）リーダー
ピエール・ザンヌー・クドボ

エッセイコンテスト表彰式 帰国報告会～家族連絡会

2010年2月27日（土）、山形市の大手門パルズにて【JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009】表彰式と青年海外協力隊帰国報告会が行われました。晴れ渡る青空の下、約60名がご参加。ロビーでは協力隊の活動を中心としたミニ写真展が開催され、世界への想像力を膨らませました。その後、山形県ボランティア家族連絡会が開催されました。

エッセイコンテスト表彰式

【JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009】、今回のテーマは「行動～地球と私のためにできること～」。山形県内からは中学生の部323点、高校生の部484点の応募があり、中学生３名・高校生３名・学校賞４校が受賞されました。おめでとうございます！

この日の表彰式には５名・１校が参加され、受賞作品を朗読。親や周囲の大人との出会い等をきっかけに、身近なことから具体的な実践に結びつけていく過程が感動的。中高生たちのフレッシュな感性に、心が洗われるようでした。

帰国報告会

続いて、２名の協力隊OBが帰国報告を行いました。

遠藤弓人さんは、ある日ラジオから聞こえてきたイラク戦争での惨状に衝撃を覚え、米沢市民病院から現職参加。貧困やエイズなど問題が山積するアフリカを志望して、セネガル共和国に看護師として派遣。マラリア予防の啓発活動に悪戦苦闘した様子をユーモアたっぷりに発表して下さいました。現地の人々と衝突しながら築いた信頼関係を振り返って、「セネガル人も日本人も地球に住んでる仲間」とおっしゃる言葉には重みがありました。

三澤和沙さんは、パラグアイ共和国に小学校教諭として派遣。小学校は７時～11時と13時～17時の２部制になっており、兄弟が午前午後に分かれて、残りは家の手伝いをしている家庭も多かったそうです。様々な苦難に直面しつつも、「次の授業はいつ？」と抱きついてくる子ども達の笑顔に救われる日々。→

《平成２１年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期　日	事　業	場　所	参加者
５月３０日	定例総会	鶴岡市中央公民館（鶴岡市）	３０名
６月１６日	２１年度１次隊壮行会	山形県庁（山形市）	１２名
９月１７日	２１年度２次隊壮行会	山形県庁（山形市）	１０名
１０月２０日	国際力エンパワーセミナー	新庄信用金庫（新庄市）	６１名
１２月１５日	２１年度３次隊壮行会	山形県庁（山形市）	１０名
２月２７日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会	大手門パルズ（山形市）	５６名
３月１５日	２１年度４次隊壮行会	山形県庁（山形市）	１２名

※５月３０日、２月２７日　２回の機関紙発行
※育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付
※小さなハートプロジェクト、ベナン大竹さんに２０万円の支援

(3頁より→)『翼を下さい』を日本語で歌えるようになったり、映画『タイタニック』のテーマ曲をリコーダーで吹けるようになったり、音楽の愉しさを伝えることが出来たそうです。

質疑応答では「帰国後、逆カルチャーショックはなかったか？」という質問があり、三澤さんは「パラグアイではほっぺを合わせて親愛の情を表現する。日本人の挨拶は丁寧だが、よそよそしい感じもする」と。遠藤さんは「日本人はマジメ過ぎて、仕事と余暇の境目がなくなっている。地域や家族との縁が薄くなってはいないか」と指摘しました。

家族連絡会

昼食を挟んで、午後は派遣中の留守家族約２０組とJICAボランティアOBなどが参加しての意見交換会です。

まず自己紹介を兼ねて、留守家族の皆さんから一言ずつ。「父親のほうは訓練所に入った今も反対！母親が『止めたらあの子に一生恨まれるから、行かせてやって』と説得した」ケースもあれば、「国内の訓練所に送り出す時、既に込み上げるものが…本番の派遣の際にはどうなっちゃうのか心配！」という方も。現地とのやり取りについては、「電話で月に２、３回話す程度」というご家庭から「スカイプ（インターネット電話のようなもの）で週に何度も話している」という方まで様々でした。

協力隊などJICAボランティアOBからは「親がどれほど心配してくれていたか、帰国後にわかった」「派遣前に勘当された！新聞やテレビに取り上げられたら、やっと意義を認めてくれた」などの発言が出ました。JICAスタッフからは「派遣隊員には”健康”と”人間力”が備わっている。ご家族は誇りに思って！」「JICAボランティアが帰国後、子どもの成長ぶりに感動した親がシニアボランティアとして活動するようになったケースもある」「医療や危機管理には万全を期しているので、ご安心を！」とのPRがありました。

その後、国（地域）ごとの小グループに分かれて、現地の情報や活動状況などについて懇談しました。（了）

▽エッセイコンテスト受賞のみなさん／▽遠藤さん帰国報告
▽家族連絡会／▽協力隊の活動を中心としたミニ写真展

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

【会費】 ●個人会員＝3000円　●家族会員＝1000円(個人会員の家族)
●学生会員＝1000円　●団体会員＝10000円（企業及び団体）

【会員特典】 JICAボランティアの姿を通して、世界が見える！「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送付手数料のみで１年間12冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族　VOL.8　平成２２年５月２９日発行（第８号）　発行人／酒井忠久

発行／〒999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方　『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局
TEL&FAX) 0234-42-1458（富樫）　E-mail) info@chikyukazoku.net　Website) http://www.chikyukazoku.net/